

拜啓 盛夏の候はるる御情 禱のことと

不慮に申しあげます。

旅芸人までござる  るとは思ふまいと人ごしに。

台場で興業の御計画でもあれど、見物人のための

金集めくらいは能うありまへん。ついでに新さるい

えりです。山拾いの著社と歩きまわればいかに

繁栄すると思ひます。

この夏は台場の山に

入るつえりでもが、新堂の館員・院生一人残らず

アフリカ、コンゴ、バミール、旧植洲へ出張し。

私一人留守番ということになり、まじりぬが、あつ

て、不思議で、新しい所になりました。

九月二十六日から三日は、祖納の学生と~~連~~れ

てお伺いする予定でした。ところが、お日はあ

れ、雨が降し、かいておいてあります。

~~所~~ 屋敷をとおす方が、存じませんが、明治

学院の同僚という方は、市君というおれ、弟、その

一人と思ひます。

前回、鵜飼金白井の近江

重彦で、隆康の台榭征伐の戦跡を見ました。

その口家にそれなりが古きもの人びとだ、そのですわ。

「ハハハ、さういふれは、いささか拙も年をとりす

まといますよ。」「關嶼で御到着とお待ちしている

彼の方を選びたいと思ひます。」「この傍で關嶼と合ひ

る様子は島と固定しているのですが、南をひきの方が

金と平らついている人。」「アエ、これは院主の一人が平ら

まーんぞ。さう夏はバツーンと行つてゐます。アエタ

人間的には不格好で合點なれ。アツリかやどが

そーは不格好と呼ばれてゐます。両者と区別

せぬ。ホモ・サビエニエりなつてもちい一癖と位置づ

る学層もいます。いずれにせよ二一を記し迎へ

ようとする今日では稀少なうゝ貴重なる人びと

あり文化であることに違ひはあります。

瓶で思ふ。出さうな。鹿川には大量のちい瓶がま

「おまゝに」を「はす」も、安條に言つたので、
彼を「さ」で「平」が「回」を「お」な「~~ん~~」鬼に「ま」。

「う」じ「ル」を「か」。明「さ」の「イン」に「支」那「半島」の

「ま」を「あり」す。好「事」が「平」を「つ」け「ぬ」う「ち」に「回」

「ま」保「存」を「は」う「お」ま「い」に「思」ひ「で」了「み」あ「る」~~ま~~「ま」

を「思」ひ「お」け「で」さ「つ」し「ま」す。悔「心」を「述」ぶ。旧「村」跡「の」

「下」に「半」の「ま」の「理」を「お」山「づ」み「を」さ「す」は「す」で「了」。

い「お」か「ま」逆「り」し「て」可「鹿」野「忠」雄「は」。又「日」平「凡」社「の」

おれも電報しよと云ふ。差いあがると申してあ
りやう。御送金の必要はありまへん。

おれは、九月にお目にまゐるのを業しおれと云ふ
ありやう。おれは、御自愛のほどお祈りいた
しております。

敬具

一九九一年八月四日

伴谷純一郎

石垣金星 謹記



9071542

石

垣

金

星

様

伸

縄

景

八

重山

郡

西

表

島

祖

紋